

総合薬学研究A

(Pharmaceutical Research A)

科目群	開講期	授業形態	単位数	必修等
薬学専門教育(研究等)	3年次 後期	研究等	3単位	必修

【概要】

3年次後期から6年次前期まで（4年次後期を除く）の2年半の間、総合薬学研究を履修することになります。

総合薬学研究Aは、いずれかの分野等に所属し、その分野の教員からマンツーマンの直接指導を受け、分野教員らとともに、研究活動の一翼を担いながら、課題に沿って研究を進めていきます。

総合薬学研究Aでの成果をもとに、5年次からは総合薬学研究Bとして、探求薬学コースと実践薬学コースに分かれます。

【授業の一般目標】

幅広い領域のニーズに対応できる薬学・医療に関する高度な専門知識・技術、研究能力とヒューマニティを兼ね備え、薬剤師としての基本的資質を身につけたファーマシスト・サイエンティストを育成する。

【学習項目・学生の到達目標】

研究に必要な法規範と倫理を遵守して研究課題を実施することによって、研究手法を習得し、研究の楽しさ・難しさを学び、得られた結果の検討や発表を行う。これによって、情報処理能力や成果発表能力を含めた研究力（問題解決能力）を培い、薬剤師として求められる基本的な資質を総合的に醸成する。

【成績評価方法・基準】

出席、課題追求の態度、レポート、セミナーの発表と質疑応答などから総合的に判定する。

分野等名	担当教員	研究テーマ
薬化学	上西 潤一（教授）	医薬品開発を目的とした酸素、窒素、硫黄含有複素環の研究
	星谷 尚亨（助教）	生物活性を有する天然物および関連化合物の合成化学的研究 有機金属を用いる新規合成法の開拓
薬品製造学	山下 正行（教授）	新規有機合成反応の開発、改良研究
	小島 直人（講師）	生物活性天然物の全合成と構造活性相関研究
	岩崎 宏樹（助教）	薬学および合成化学的に有用な機能性分子の開発と応用研究
薬品化学	赤路 健一（教授）	天然および非天然型ペプチド誘導体の合成および医薬化学研
	服部 恭尚（助教）	ペプチドミメティクスの分子設計と創薬化学研究
	小林 数也（助教）	構造解析に基づく機能性分子の医薬化学研究
生薬学	松田 久司（教授）	天然薬物有効成分の化学及び薬理学的解明
	中村 誠宏（准教授）	薬用食品の高次機能性成分の探索 熱帯多雨地域における天然薬物資源の開拓
薬品分析学	北出 達也（教授）	分子インプリントポリマーを用いた人工免疫センサーの開発
	武上 茂彦（准教授）	薬物と生体関連物質との相互作用に関する分析化学的研究
	小西 敦子（助手）	脂質ナノ粒子を用いた分光学的疾病診断法の開発
代謝分析学	安井 裕之（教授）	健康・疾病・老化を診る生物無機化学および生体分析学研究
	内藤 行喜（助手）	生活習慣病を改善する金属錯体および無機医薬品の開発研究 薬物・生体関連分子を追跡する計測技術および動態解析研究
薬品物理化学	小暮 健太郎（教授）	生活習慣病や癌を対象とした革新的薬物送達システムの開発
	瀧 進（講師）	
	扇田 隆司（助教）	癌微小環境に起因する癌進展メカニズムに基づいた治療・診断法の開発
衛生化学	長澤 一樹（教授）	ヌクレオチド及び亜鉛による脳神経系ネットワーク制御機構に関する研究
	西田 健太郎（助教）	味覚情報伝達機構に関する研究 抗がん剤などによる末梢神経障害発症機構の解明
公衆衛生学	渡辺 徹志（教授）	環境汚染物質の分析法の開発と環境動態解析
	長谷井 友尋（助教）	外因性・内因性遺伝毒性物質の検索と毒性評価 抗遺伝毒性物質の検索と作用機序の解明
微生物・感染制御学	後藤 直正（教授）	緑膿菌の組織上皮細胞層の透過（トランスロケーション）機構
	皆川 周（助教）	細菌間情報伝達および菌交代現象の解析
	林 直樹（助教）	新規抗菌薬耐性機構の解明
生化学	中山 祐治（教授）	細胞周期および細胞分裂制御機構に関する研究
	齊藤 洋平（助教）	細胞分裂制御の破綻による細胞がん化に関する研究
	久家 貴寿（助教）	分子シャペロンの機能解析と疾患との関連に関する研究
病態生理学分野	芦原 英司（教授）	悪性腫瘍に対する新規治療法の開発研究
	北村 佳久（准教授）	骨髄由来細胞を用いた移植免疫治療の開発
	高田 和幸（助教）	アルツハイマー病・パーキンソン病の新規治療戦略の開発
病態生化学分野	秋葉 聡（教授）	粥状動脈硬化症の発症機構およびその制御に関する研究
	石原 慶一（講師）	脂肪肝および肝線維化の新規治療標的分子の探索
	金井 志帆（助手）	ダウンシンドロームの発症進展機構に関する研究

薬物治療学	加藤 伸一（教授）	消化管における炎症・免疫応答の制御機構に関する研究
	天ヶ瀬 紀久子（講師）	炎症性消化管疾患および機能性消化管障害 (FGID, IBD) の病態解明と予防・治療法に関する研究
	松本 健次郎（助教）	薬剤起因性消化管傷害の病態解明と予防・治療法に関する研究
臨床薬理学	中田 徹男（教授）	メタボリックシンドローム・CKDと脳心腎連関の研究
	小原 幸（准教授）	虚血性心疾患と心不全の発症機序およびその治療薬の検討
	鳥羽 裕恵（助教）	高血圧症の中核成因論と薬物治療効果の検討
	大東 誠（助手）	
薬理学分野	大矢 進（教授）	イオンチャネル関連疾患（アレルギー性・炎症性疾患，癌 等）の分子薬理的解析
	藤井 正徳（准教授）	鎮痒薬開発を指向したアトピー性皮膚炎モデルの構築とその薬理的解析
薬剤学	山本 昌（教授）	難吸収性薬物の消化管・経粘膜吸収性の改善
	坂根 稔康（准教授）	鼻腔内投与後の薬物吸収と脳への薬物送達
	勝見 英正（助教）	骨粗鬆症治療薬及び抗癌剤のDDS開発
	草森 浩輔（助教）	
薬物動態学	栄田 敏之（教授）	薬物血中濃度測定、遺伝子関連情報に基づく薬物治療の個別化に関する研究
	伊藤 由佳子（講師）	抗がん剤等の PK-PD に関する研究 医薬品の安全性確保のための非臨床薬物動態試験システムの構築に関する研究 マイクロニードルを利用したTDM代替法に関する研究
細胞生物学	藤室 雅弘（教授）	細胞内翻訳後修飾とタンパク質分解の異常と疾患に関する研究
	賀川 裕貴（助教）	細胞内シグナル伝達と疾患に関する研究
	渡部 匡史（助手）	ヒトヘルペスウイルスの病原性と治療法に関する研究
臨床腫瘍学分野	吉貴 達寛（教授）	新規細胞増殖関連因子C7orf24（U7）に関する研究
	飯居 宏美（助教）	新規癌マーカータンパク質の検出方法確立に関する研究 ウロプラキニンIIIタンパク質の分子間相互作用に関する研究
臨床薬学	西口 工司（教授）	抗がん剤の適正使用に関する研究
	辻本 雅之（講師）	病態・食習慣の違いに着目した薬物動態学-薬力学的個人差に関する研究
	峯垣 哲也（助手）	医薬品の適正使用・薬剤師業務へのエビデンス付加を目指した研究
健康科学	長澤 吉則（准教授）	運動と生理学的変化に関する基礎研究
	沼尾 成晴（講師）	服用薬、既往歴および生活習慣に関する資料研究 スポーツリハビリや健康づくり教室参加者の資料収集
臨床薬学教育研究センター	高山 明（教授）	臨床薬物治療および医薬品開発における医薬品評価に関する研究
	橋詰 勉（教授）	
	矢野 義孝（教授）	
	津島 美幸（准教授）	
	中村 暢彦（講師）	がん化学療法と疼痛疾患における薬学的支援に関する研究
	今西 孝至（講師）	
	本橋 秀之（講師）	患者情報を利用した疫学的調査研究
	河野 修治（講師）	
	松村 千佳子（助教）	

薬用植物園	月岡 淳子 (助教)	薬用植物栽培・管理の基本技術の習得
	前田 晋作 (助手)	さく葉標本製作技術の習得と薬用植物園所蔵さく葉標本の修復